情報連絡員からの報告（要旨）

《製造業》

食料品

1. ＜愛　媛　県　　パン　　＞
９月は原材料の値上げも多く、販売価格の改定をしてもすぐに製造原価が変わってしまうような状況にある。継続して一定の利益率を保つことが難しい。人員確保もますます難しくなっている。

2. ＜高　知　県　　酒類　　＞
主食用米の価格下落が続く中、酒米の生産や供給体制への影響について、引き続き動向を注視していく必要がある。販売面では現時点で大きな変動はなく、概ね前年並みで推移している。

3. ＜福　岡　県　　その他　　＞
９年産銘柄について　毎年９月に２回の入札を行うが（今年２回目は10月上旬）、今年も10%程度の値上となりそうである。

4. ＜長　崎　県　　味噌　　＞
醤油業界は食生活の多様化により３カ月連続減少しているが輸出は拡大傾向が続いている。味噌業界は内食回帰や輸出好調により４カ月連続の増加と回復基調。輸出拡大を目指し情報発信に努めていきたい。

5. ＜沖　縄　県　　めん類　　＞
電気代の値上がり（11月）、最低賃金のアップ（12月）、小麦粉の値上がり（27年1月）などが予定されており、どの組合員からも先行きに対する不安の声が届いている。民間の努力のみで解消するには限界がある。

6. ＜東　京　都　　米菓　　＞
食用米の市場価格は急速に下がっているものの原料米の価格取決めが夏前に決定する年間契約のため、値下がりに繋がっていない。このため製品値下げが難しく、他の菓子に消費者が流れることが懸念されている。

繊維工業

7. ＜石　川　県　　織物　　＞
好調であったスポーツ衣料・アウトドア用途の製品に一服感がみられる。民族衣装用途では、中国勢の攻勢や流通在庫の増加により、減産・生産調整を余儀なくされている。

8. ＜滋　賀　県　　麻織　　＞
業界全体的に動きが活発になってきている。電気代（高圧）が11月から値上げされる。エネルギーの高騰は、業界として非常に厳しい。

9. ＜奈　良　県　　繊維　　＞
先月と比べ大きな変化はなく、全体として横ばいで推移している。靴下など定番商品の受注は一定程度あるものの、物価高による節約志向が続き、衣料品需要は力強さを欠く。

10. ＜岡　山　県　　アパレル　　＞
学生服メーカーは原材料費高騰や円安の影響で製造コストの高騰が続いており、値上げが必須と言えるなか、文科省からはメーカーへの値下げ依頼も来ており、対応が難しい状況に置かれているといえる。

11. ＜徳　島　県　　縫製　　＞
アパレル市場では、消費者の節約志向が続いており、メーカー側も在庫を抱えることを避けるため、発注数量を抑え、小ロット・多品種・短納期での生産を求める傾向がより強くなっている。

12. ＜鹿児島県　　大島紬織物　　＞
検査反数は37%増であった。10月より検査料の値上げを予定しており、駆け込み需要があったものと思われる。

木材・木製品

13. ＜青　森　県　　製材　　＞
一般住宅向けの製材工場は、引き続き厳しい状況が続く。県産材を主に使用する住宅会社によると、金利上昇や資材価格の上昇により、住宅着工を希望する顧客との交渉が難航し、新規案件の獲得に至らない状況。

14. ＜福　島　県　　製材　　＞
原木は８月から長雨により出材ができず市場への入荷が減少し価格は上昇。スギ製品は丸太価格の値上がりにより値上げ姿勢は強いが、一般工務店向けの荷動きが振るわず思うように値上げが進んでいない。

15. ＜栃　木　県　　木材・木製品　　＞
梱包向け木材需要は高い状態が続いており、売上高は前年同月比1.6倍となっている。但し、梱包向け加工部門は人手不足から外注に依存せざるを得ず収益が伴っていない。

16. ＜山　梨　県　　家具　　＞
金利上昇による住宅の買い控えや、人手不足による工期の遅延などの影響により、前年同月と比べ売上は▲10%、収益状況は▲15%となった。

17. ＜三　重　県　　木材　　＞
９月以降の大雨の影響で原木の集荷が遅れ気味である。円安、輸送コスト、燃料費の高騰等もあり、国産材製品の荷動きは依然として低調で、コストに見合った価格転嫁は進んでいない。

18. ＜宮　崎　県　　製材　　＞
９月生産量は前年同月比30%ダウンとなった。住宅資材の高騰に加え金利上昇も相まって住宅着工は更なる低調へと転じ始めている。非住宅分野は好調とは言えないものの秋需要にいくらか期待が持てる状況。

紙・紙加工品

19. ＜茨　城　県　　段ボール　　＞
国内生産量が減少する一方で、海外市場の回復傾向を背景に輸出向け古紙の買取価格が上昇している。この価格変動に伴い、今後の原材料コスト増加が懸念される。

20. ＜群　馬　県　　紙製品　　＞
価格転嫁は概ね進むが買い控えや天候不順で段ボール等の需要は鈍化。人件費等の上昇に加え、製紙会社の更なる原材料値上げの動きも危惧しており、更なるコスト増に対応した適切な価格転嫁の継続が必要。

21. ＜京　都　府　　紙製容器　　＞
価格改定の効果により収益、資金繰りはプラスとなっているが、仕事量は減っている。価格上昇に伴い、紙袋や包み紙などによる簡易包装化への動きも進んでおり、受注全体が減少傾向にある。

22. ＜大　阪　府　　古紙収集加工　　＞
10月のメーカー生産は順調で、古紙の購入意欲も強い。一方、９月の長雨・豪雨により古紙の発生量と問屋在庫が減少し、輸出価格も上昇しているため、問屋は限られた在庫の国内・輸出向け配分に苦慮している。

23. ＜愛　媛　県　　機械すき和紙　　＞
衛生用紙の国内出荷は前年同月比7.7%減、２カ月連続のマイナス。

24. ＜東　京　都　　紙製品　　＞
ボンボンドロップシールの売れ行きは依然好調であり卸売業・小売業を潤している。大手雑貨小売店ではインバウンド消費が伸びている。文具の他に富士山や日本文化をモチーフにしたマグネット商品が売れている。

印刷

25. ＜宮　城　県　　印刷・同関連　　＞
８月印刷・情報用紙の国内出荷は前年同月比1.8%減と、15カ月振りに増加した前月から再び減少に転じた。前月の増加は、製紙メーカーの９月以降の値上げを受けた駆け込み需要による一時的な増加とみている。

26. ＜埼　玉　県　　印刷　　＞
官公需において、県外の業者が安値で落札するケースが続いており、県内の事業者は疲弊している。

27. ＜石　川　県　　印刷　　＞
官公庁のオープンカウンター方式による印刷発注については、資材価格が高騰する一方、落札価格が数年前と変わらない状況もみられ、適正な価格での受注が難しくなっている。

28. ＜岐　阜　県　　印刷　　＞
官公庁、大学において印刷物の発行を取り止め、ＰＤＦなどＷＥＢ上での対応にとどめるという話が引き続き発生している。需要減の動きが止まる兆しが見えない。

29. ＜三　重　県　　伊賀焼　　＞
原材料価格の高騰により、各事業所は不安の中、商品製造や開発に努めている。県からエネルギー価格対策として補助金が交付されているものの、少額であるため、価格高騰の対策としては乏しい現状である。

30. ＜兵　庫　県　　印刷・同関連　　＞
中東情勢の影響による原材料費や物流費の上昇分については、通常の価格改定とは分けて協議するケースもあり、価格上昇の要因を整理し分けて説明することが、円滑な交渉につながる場合も見受けられる。

化学・ゴム

31. ＜京　都　府　プラスチック製品　＞
当面の経営上の問題点として、原材料高・人件費高・採用難・人材育成を挙げた企業が多く、技能者不足という意見も聞かれた。

32. ＜大　阪　府　ｾﾙﾛｲﾄﾞﾌﾟﾗｽﾁｯｸ製品　＞
業況に大きな変化はないが、中東情勢の不安定化による原料不足への懸念から主・副原料を過剰に確保した結果、在庫の消化が進まず、資金繰りを圧迫している。

33. ＜兵　庫　県　　ゴム製品　　＞
業界を取り巻く環境は依然厳しいまま。市場の動きも鈍く、消費マインドを刺激するような施策や商品が待たれる。

34. **＜奈　良　県　　プラスチック　　＞**
中東情勢の長期化により、原油・ナフサなどの石油化学原料は価格が高止まりしているものの、調達面では安定化している。原材料の価格転嫁は進みつつあるが、加工費の転嫁は依然難しい。

35. **＜島　根　県　プラスチック製品　＞**
９月も売上は昨年比115%以上を確保し、引き続き堅調に推移している。新製品、移設、増面などの問合せも継続しており活況。既存アイテムの量産受注も好調に推移しており、生産能力をオーバーしている。

36. **＜広　島　県　プラスチック製品　＞**
ナフサや石油化学製品の値動きがプラスチック業界に大きな影響を与えるのは当然であるが、金属などの組付け部品も大幅に値上がりしており、値上がり分を販売価格に反映させることが急務となっている。

窯業・土石製品

37. **＜山　形　県　コンクリート製品　＞**
公共工事の発注が増えてきているが、民間工事が非常に少ない状況。石油由来製品（スペーサー・剥離剤等）の価格高騰により製造原価に影響が出ており、今後の価格に影響が出る見込み。

38. **＜茨　城　県　コンクリート製品　＞**
農業用資材は2025年４月以来単価見直しがされていなかったが、本年９月に大幅な単価改定が実施された。具体的には排水フリュームが５～６%程度、鉄筋コンクリート溝型柵渠が６～20%程度値上がりした。

39. **＜群　馬　県　コンクリート製品　＞**
長雨による天候不順の影響を受け、大幅減益。一部原料の値上げに伴い、来春より価格改定を進める方針だが、出荷量への悪影響を懸念している。

40. **＜埼　玉　県　　窯業・土石製品　　＞**
９月出荷は前年同月比76.8%、想定数量比80.2%となった。大型工事物件も少なく、台風等による自然災害もあり出荷は伸び悩んだ。セメント等の原材料費等の高騰に対処すべく来年４月からの価格改定を表明した。

41. **＜神奈川県　　砕石　　＞**
雨の日が続き現場作業が出来ず工事等が遅れており、生コンクリートの出荷が大幅に減少しているため、骨材の出荷も同じように減少した。

42. **＜山　口　県　　砕石　　＞**
公共工事・民間工事とも県下全体では低迷し砕石出荷量は大幅に減少している。特に道路用砕石の落ち込みが激しく、先行きの予想が立たない状況。一方、岩国地区では民間工事・公共工事とも依然として堅調。

鉄鋼・金属

43. **＜千　葉　県　　機械部品　　＞**
食品業界および半導体業界からの受注が活況であり、半導体関連企業の受注が伸びている。一方、売上高は前月比で減少し、業界の景況は前月比・前年同月比ともに悪化となっている。

44. **＜神奈川県　　工業塗装　　＞**
当社の主力産業分野である防衛産業は引き続き好調である。物価の高騰は賃金の上昇を上回っている状況で、社員の生活レベルは低下していると思われる。

45. **＜石　川　県　　一般機械器具　　＞**
建設機械・車両の需要は引き続き安定しており、下期も前年を上回る需要が見込まれている。組合員企業では機種によって受注が増加し、高操業となっている一方、産業機械・工作機械では低操業の企業もみられる。

46. **＜愛　知　県　　鉄鋼　　＞**
車関係の鉄工製造業は受注安定している。鉄道車両の車体部品製造業は受注良好で忙しい。鋳鉄鋳物業は受注減の状態が長期間続いている。同業他社が受注減から採算割れし廃業する所があると心配している。

47. **＜大　分　県　　鉄鋼　　＞**
一般産業機械・電気機械・半導体関連等の分野は堅調に推移しており、分野間の濃淡が大きい状況である。そのため同業他社においても企業間の競争力に差が生じていると感じている。

48. **＜東　京　都　　一般缶　　＞**
需要は堅調。但し缶用鋼板は新価格（値上げ）への切り替えが進んでおり、組合員の仕入価格及び在庫評価額（資金需要）は膨らんでいる。顧客への価格交渉も進めているが道半ばであり採算は悪化している。

一般機器

49. **＜山　形　県 その他の電気機械器具＞**
各社の生産設備が不足気味となってきているが、借入金利上昇が予想され新規設備投資導入については慎重に検討している状況である。一般機械製造業では景況感も改善しており前年比売上高の増加が見られる。

50. **＜新　潟　県　　機械器具　　＞**
機械加工品や製缶品、半導体、データセンターなどの動きが活発で、その関連装置や部品製造に携わる企業が忙しい状態になっている。数カ月単位で受注している企業もあり、多くの企業への波及が望まれる。

51. **＜石　川　県 機械金属・機械器具＞**
ＡＩ需要の拡大により半導体関連は多忙な状況となっている。繊維機械関連ではガラス繊維用機械部品の受注が増加し堅調に推移している。建設機械、工作機械、自動車関連も全体として上向いている。

52. **＜福　井　県　　機械　　＞**
超硬鋼材の値上げが凄まじい。 原材料高騰が納品価格に反映できない。 今年度は北米・アジアを中心に外需が増加し工作機械業界は盛況となっている。 中東情勢影響で輸出時の船賃が増加し収益を毀損している。

53. **＜長　野　県　　一般機械器具　　＞**
生産機械や工場設備関係はＡＩ・半導体向け投資が拡大し、需要が増加。自動車関連は横ばい。ホテル業はシルバーウィーク需要もあり、予約が比較的順調でロボット事業も順調。

54. **＜大　阪　府　　生産用機械器具　＞**
円安の長期化を背景に製造拠点の国内回帰が進むとともに、機械設備の高騰により自社での設備更新を見送り、下請け企業へ生産を移管する動きが広がったことで、操業度は向上している。

電気機器

55. **＜富　山　県 電子部品・デバイス・電子回路＞**
半導体製造装置向け部品受注は引き続き好調。自動車向け部品は計画通りの推移だがハイブリッド車向けに受注増加の傾向がある。民生向け部品にも一部受注増加が見られる。タングステン価格高騰は継続中。

56. **＜山　梨　県　　電気機械器具　　＞**
前年同月比売上・収益状況は▲５%となった。半導体関連の受注は、９月に入り多少リピート品の注文が出てきたが、納期が11～12月となる案件が多いため、資金繰りが厳しい状況である。

57. **＜静　岡　県　　電気機械器具　　＞**
８月民生用電気機器出荷額は12カ月連続のプラス。ルームエアコンは12カ月連続、電気冷蔵庫は２カ月連続のプラス。ルームエアコンは省エネ法適用前の駆け込み需要と猛暑により前年比1.5倍の伸びとなった。

58. **＜愛　知　県　　配電盤　　＞**
需要はあるが契約は先延ばしとなっている。要因としては①中東情勢の悪化による原油関連の部品が調達できず作れない。②人手不足が深刻な状況になっている。人がいないので作れない。

59. **＜広　島　県　　電気機械器具　　＞**
ＡＩ関連市場が好調であることから、半導体のパッケージ基板を製造する装置の需要が高まっている。需要増加の影響で、装置や機械周りの部材が入手しにくくなっているものが増えており、価格も上がっている。

60. **＜東　京　都　　照明器具　　＞**
2027年末の一般照明用蛍光灯の製造・輸出入禁止を控え、既設照明のLED化に向けた更新需要が引き続き増加。一方で原材料価格や物流費、人件費等の上昇が続いており、照明器具の価格改定も実施されている。

輸送機器

61. **＜三　重　県　　輸送機器　　＞**
自動車部品は、市場ニーズ対応品は堅調だが、過去からの部品は力強さが減少している。一般機械器具も前年比減。物量の増減は収益への影響が大きく、加えて消耗品等の値上がりによる収益圧迫要因が目立つ。

62. **＜兵　庫　県　　輸送用機械器具　　＞**
９月の販売状況は、全体で前年同月比19.1%増加。ガスタービンは堅調に販売を伸ばした。ロボットは医療現場の高度なニーズと、汎用ロボットが活躍し急激に需要が増加している。

63. **＜長　崎　県　　船舶製造･修理　　＞**
昨年９月比では、造船関係は多少ではあるが売上･雇用人員が増加傾向、造機関係(機械･ボイラー･タービン)は横ばいの状況。先月比では艤装工事量が増え、アフターサービスなど出張工事は徐々に好転傾向。

64. **＜山　口　県　鉄道車輌・同部品　＞**
鉄道車両関係の全体の受注量は低位で推移していたが、徐々に回復基調にある。2027年度の受注は増加見通し。半導体製造装置の部品製造業は当初の予測より受注量が減少していたが増加傾向の見通しである。

65. **＜愛　媛　県　　造船　　＞**
組合員各社の仕事量・売上高・業績については、先月までと同様に緩やかな右肩上がりで推移している。製造コストの上昇により大きな増収とはなっていないが少しずつ良くなってきている。

66. **＜大　分　県　　造船　　＞**
全体的に売上は単価が上昇した分増加しているが、人件費高騰により利益は変化無し。人件費の上昇に工事金の増加が追い付いていない状況。 外国人の確保も諸外国との競合により徐々に厳しくなってきている。

その他の製造業

67. **＜神 奈 川 県　　工業中心複合　　＞**
業界により売上・収益格差が顕著となる傾向にある。半導体の需要増加、データセンター増設が顕著であり、関連業界が活発化している。シンナー、ブタンガス等石油由来物質の供給不足と価格高騰が顕著である。

68. **＜石　川　県　プラスチック製品　＞**
原材料は納品まで時間を要しているものの、以前のような入手困難な状況は解消している。一方、過去の材料不足を踏まえ、年末需要を見越して早期に発注する必要があり、過剰在庫となるリスクも生じている。

69. **＜兵　庫　県　　その他　　＞**
９月は釣りシーズンで商品が動きやすい時期であるが、売上は天候、気温、水温、連休需要、在庫状況等に左右され易く前年同月比で横ばいからやや弱めの状況。当組合の線材売上高も前月比15%程度減少した。

70. **＜奈　良　県　　毛皮革　　＞**
毛皮加工は受注件数が減少傾向。国内商社による原皮仕入が減少しており今後の調達が不安要素。鹿皮は小ロットながら全国から鞣し依頼が続く。セーム革も国内外からの注文・問い合わせが多く好調を維持。

71. **＜和歌山県　　その他　　＞**
９月の前月比売上高は増加している。値上げにより売上高の増加傾向は続いているが、生活雑貨関連の販売は減少傾向の模様となっている。人口減少や生活者の意識が反映していると考えている。

72. **＜東　京　都　ネームプレート　＞**
引継案件ばかりで新規受注が少ないため、金型などの協力工場が売上減少で悲鳴を上げている。価格転嫁が少しずつ効果が出ているのかもしれないが、まだ充分な値上げではないため、今後も粘り強く交渉していく。

《非製造業》

<u>卸売業</u>

73. **＜北　海　道　　各種商品　　＞**
生活雑貨では涼しかった夏の影響と価格上昇による消費者の節約志向で季節商品の返品が増加。仕入コストや梱包資材の高騰、物流費の増加により10月から価格改定の動きが多く、これに伴う作業も増大している。

74. **＜千　葉　県　　食肉　　＞**
今年は豚肉相場の上昇がなかった。飼料価格が上昇する一方で豚肉相場は上昇しないことから、養豚農家の経営は厳しいものになると想定される。

75. **＜滋　賀　県　電気機械器具　＞**
建築資材価格や人件費の上昇に加え、住宅ローン金利の大幅な上昇により住宅取得者の負担が増加し、新築着工件数が急激に減少。改修・修繕等の需要はあるものの新築需要の減少を補うまでには至っていない。

76. **＜山　口　県　　乾物　　＞**
倉庫売上は前年比大幅に減少。特に主力商品であるカキの入庫及び在庫減少が大きく影響した。10月以降はや
や復調の兆しも見えており、今後しっかりと状況を確認しながら運営を行っていく。

77. **＜高　知　県　　青果　　＞**
９月の取扱高は組合員全体で前年対比104.5%となった。５カ月連続で前年を上回ったが相場高騰による影響が大きかった。今年の1月から9月までの累計でも101.5%に上昇したが、各社のばらつきも見られる。

78. **＜東　京　都　　包装用品　　＞**
価格上昇に伴い安価品へのシフトが進んでいるのか、値上げ実施品の失注が目立ってきた。それにより、価格転嫁への躊躇や値下げに切替われば、より厳しい状況に追込まれるのではないかと懸念している。

<u>小売業</u>

79. **＜茨　城　県　スポーツ用品　＞**
スポーツ用品においても各メーカーからの値上げ要請が相次いでいる。特に小・中・高校向けの学校体育用品（体操服、シューズ等）の値上げが著しく、適切な価格転嫁に向けた慎重な交渉が進められている。

80. **＜石　川　県　　鮮魚　　＞**
組合事業の売上・収益ともに前年を上回ったものの、物価上昇により物品価格や棚卸資産の評価額が上昇した影響が大きく、購買者数は前年を下回っている。シルバーウィークには例年以上の観光客がみられた。

81. **＜岐　阜　県　　生花販売　　＞**
長雨による天候不順により生育も悪く、入荷量は少なく推移し、売上にも響いた。前年同月比で売上は86%、入荷量は85%の状況であった。

82. **＜奈　良　県　　自転車　　＞**
長雨で販売は伸び悩んだものの地域振興券の駆け込み需要や修理が好調で業況・収益はやや改善した。一方、業務量の急増で負担感が強まっている。今後は修理対応に加え、需要のある自転車販売に注力したい。

83. **＜佐　賀　県　　小売　　＞**
県内の食品卸業者が減少して、大手卸業者との取引を余儀なくさせているが、条件面で厳しくなってきており、保証金をお願いさせるケースが多くなってきている。

84. **＜熊　本　県　　各種商品　　＞**
来春に大手ディスカウントスーパーが出店する。山鹿地区にはディスカウント的なスーパーが多く、価格による競合が更に激化すると考えられるため、価格による疲弊を避け、価格以外の差別化を進める必要がある。

商店街

85. ＜秋　田　県　　秋田市　　＞
シルバーウィークや地域商業販売力強化プロジェクト補助金による各種催事、県のプレミアムチケットの効果もあり、街区全体の来街者は増加しておおむね好調に推移した。

86. ＜石　川　県　　白山市　　＞
販売価格の上昇により売上高は増加しているものの、仕入価格や人件費等も上昇しているため、収益状況は横ばいまたは悪化している企業もみられる。各業種で仕入価格等の上昇が経営上の負担となっている。

87. ＜愛　知　県　　一宮市　　＞
長雨が続いたことで客足が大きく遠のき、個店の売上に影響が出ている。仕入価格や光熱費などの物価高止まりに加え、昨今の金利上昇により、今後の資金繰りや店舗運営コストの負担増加が懸念される。

88. ＜京　都　府　　京都市　　＞
商店街では、中旬以降暑さが和らぎ人通りも増えて来たと思われる。外国人観光客は東南アジアや欧米人が増え、相変わらず中国人は殆ど見えない。時々見かけるのは中国人の留学生かと思う。

89. ＜和歌山県　　和歌山市　　＞
長雨の影響もあり来街者は少な目となっている。一方で商店街で運営している多目的スペースの利用者は増えてきており、９月は延べ18日間の利用があった。今後、商店街の行方に大いに関係してくると考えている。

90. ＜山　口　県　　宇部市　　＞
９月末まではプレミアム商品券により売上は増加傾向だが、10月からの値上げラッシュで買い物客が減少すると、商店街は維持できなくなる。中心市街地も人通りが全くない。

サービス業

91. ＜岩　手　県　　自動車整備　　＞
オイル不足は落ち着きを見せているものの、不足時に上昇した価格は依然として下がらず、価格転嫁せざるを得ない状況となっており、ユーザーの負担増に繋がっている。

92. ＜山　梨　県　　警備　　＞
昨今の物価高騰の影響により警備単価の引上げが進み、販売価格も上昇している。また、工事現場などインフラ整備に伴う交通誘導警備の受注が好調で、前年同月と比べ売上は５％増加した。

93. ＜滋　賀　県　　理容　　＞
物価高騰による仕入商品・光熱費等の値上がりが店舗運営を直撃している。また、顧客の来店周期も長期化し、売上げに影響が出ている。組合では理容店の支援を行うため、価格転嫁の方法などの助言を行っている。

94. ＜和歌山県　　ガス　　＞
ガス空調の消費量増加で売上高は増加した。ガスの輸入価格相場は下落したが、円安のため仕入価格は上昇した。また、他エネルギーからの燃転キャンペーンを実施したことにより、器具関連の売上が増加している。

95. ＜島　根　県　ビルメンテナンス　＞
組合の共同受注は官公需に特化しているため価格転嫁が出来ている。複数年契約でスライド条項がある契約については４月１日付けで増額要求を行った結果、増額が認められ、３～４％の増額となった。

96. ＜広　島　県　　自動車整備　　＞
物価上昇が続くなか、工場によっては客離れへの心配から価格に反映させることが容易ではなく、部品の仕入価格の上昇分を自社で負担して対応しており、厳しい状況である。

建設業

97. ＜富　山　県　　電気工事　　＞
公共事業・設備投資・住宅着工件数共に順調に推移。一部電材・照明器具等の供給遅延が発生し、工期に影響を与えている。特に蛍光灯の製造中止を来年春に控え、取替需要が多く一部に納期未定が発生している。

98. ＜石　川　県　板金・金物工事　＞
職人不足による現場の停滞や材料価格の高騰による建築需要の減少などから、売上高・収益ともに減少している。人手不足による他業種の現場遅延も工事着手の遅れにつながり、現場ストックが増加している。

99. ＜山　梨　県　　電気工事　　＞
材料、特にケーブルの価格上昇が続いており、LED照明器具の納期が発注から半年後となるケースもある。このため、工期延長による売上の遅れや、工期中の材料価格上昇による利益の圧迫が生じている。

100. ＜長　野　県　　設備工事　　＞
住宅関連の設備機器等は滞りなく納入されるが、ボイラー等の価格は異常な高値となっている。職人等の人員不足により手一杯となっており、水道本管工事等の人員を要する工事が受注できない業者も出始めている。

101. ＜静　岡　県　　総合工事　　＞
９月に入り、来年に建設を予定している企業や個人から、金融機関の貸出金利引き上げを受け予算組みの為に早急に見積書を提出して欲しいとの依頼が数件あった。

102. ＜徳　島　県　　鉄骨・鉄工事　　＞
見積り、物件ともに相変わらず少ない状況であり、材料単価は上昇している。ミスやロスの減少に取り組み、利益を確保することが課題となっている。

運輸業

103. ＜山　梨　県　　道路貨物運送　　＞
長雨の影響で青果物に影響が出始めている。天候不順により飲料などの出荷も少ないため、全体的に稼働状況は落ち込んでいる。燃料高止まりや人手不足も相まって、全体的な景況感としてはマイナス基調で推移。

104. ＜愛　知　県　　一般貨物　　＞
燃料価格は安定しているが、慢性的な人材不足やトラック価格の上昇が経営を圧迫している。円安やインフレによる資材価格上昇により、一部輸出関連の事業は売上が伸びている。

105. ＜京　都　府　　道路貨物運送　　＞
取適法が荷主の一部に浸透しておらず、相変わらず支払いサイトが長い、待機時間や付帯作業、高速料金の請求ができないなどの課題がある。荷主に対しての働きかけを積極的にしていただきたい。

106. ＜鳥　取　県　　運輸　　＞
９月の物流は荷物不足が解消されつつあり、全体の輸送量及び運行効率は良い状況だった。製造業は好調であるが野菜などの農産物の輸送量が今後心配。時間外労働規制を背景にスポット運賃は高止まりが続く。

107. ＜香　川　県　　タクシー　　＞
令和８年３月１６日に小豆郡及び直島町を除く香川県全域において13.05%の運賃改定がなされた。令和８年８月の輸送実績は、対前年同月比で営業収入119.3%、輸送人員は106.4%となった。

108. ＜高　知　県 一般乗用旅客自動車運送 ＞
実働１日１車当りの前年同月対比運送収入は102.6%、回数は104.6%、実働率は49.4%。高知新港に大型客船が寄港しており、タクシーの需要がかなりあるのに車が足りず、お客様に迷惑をかけている。

その他の非製造業

109. ＜栃　木　県　　大谷石採石　　＞
今月も先月同様、受注が高い状況が継続している。受注は、オフィス・店舗の内外装材とその設置工事を中心に増加している。

110. ＜神 奈 川 県　　介護・福祉　　＞
状況に大きな変化はないが、職員給与水準は若干ずつ上向き傾向にある。しかし、職員の定着率の問題は依然として課題の一つである。この穴埋めとして外国人職員の活躍が今後も期待されている。

111. ＜新　潟　県　　砂利採取　　＞
出荷量は低調に推移し、主要出荷先の生コン向け骨材は前年比71.5%に止まっている。令和９年度の価格改定に向けた検討が進んでおり、緑ナンバー事業者への移行もあり、大幅な価格上昇が見込まれている。

112. ＜長　野　県　　砂利採取　　＞
９月の売上数量・売上高は昨年比減少した。一時的なものと思われるが、景況感は変わらず、今後の見通しは決して明るいものではない。トラック規制、物価の高騰等のため、12月からの製品の値上げを行う。

113. ＜滋　賀　県　　砂利採取　　＞
９月単月は出荷量、売上高ともに前年比減少。民間・公共工事とも少なく、生コン出荷も減少していることから骨材の購入が減少している。価格改定は９月21日より実施、収益状況の好転を期待する。

114. ＜兵　庫　県　　物品賃貸　　＞
燃料費の高騰は少し落ち着いていく傾向にはある。しかし、10月の最低賃金の上昇を前に、人件費の負担分をいかに対処していくのか課題は大きい。